

令和８年度 第１回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 会議録

開催日時	令和８年７月１５日（水） 午前１０時から正午まで
開催場所	あま市役所 ２階Ｆ会議室
出席委員（敬称略）	杉藤一夫、川原史子、早川安広、中島純子、横山亜矢子、小林優太、谷口庄一、木村考志、小坂井智弘、大家浩靖、横銭淳一（代理出席 菱田佳祐）、下田英明（代理出席 真野崇徳）、服部哲也
欠席委員（敬称略）	武舎妙子、伊藤克仁
事務局	調整監 飯田達也、企画政策課課長 室田裕貴、企画政策課主幹 八神丘侑、企画政策課主幹 説田将光、企画政策課課長補佐 近藤尚和、企画政策課主任 伊藤勇人
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	０人
次第	１ 開会 ２ 議題 （１） 第２期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の延長分の目標値について （２） あま市人口ビジョン案（令和８年度改訂版）について （３） 第３期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略について （４） 新しい地方経済・生活環境創生交付金及び企業版ふるさと納税制度の活用状況について ３ その他 ４ 閉会
配布資料	資料１ 第２期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗確認資料 資料２ あま市人口ビジョン案（令和８年度改訂版） 資料３ 第２次あま市総合計画後期基本計画素案（第３期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略含む） 資料４ 新しい地方経済・生活環境創生交付金（デジタル田園都市国家構想交付金）に係る実績等について 資料５ 企業版ふるさと納税制度活用状況について

事務局	おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。ただいまより、令和８年度第１回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会を開会させていただきます。 この会議は、公開でございますのでよろしくお願い申し上げます。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りになるか、マナーモードにさせていただきますようお願いいたします。
-----	--

	本日の会議は議事録システムを活用いたしますので、会議中のご発言の際は、お手元のマイクの電源をオンにさせていただいてからご発言をお願いいたします。本日の終了時刻は11時50分ごろを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。 本日は今年度第1回目の開催ですので、皆様から一言ずつ自己紹介のご挨拶をいただくのが本意ですが、時間の都合もございますので、私のほうから紹介をさせていただきます。 (委員、市の職員を紹介) 続きまして、開会にあたりまして会長よりごあいさつをお願いいたします。
会長	よろしくお願いいたします。 年々夏が暑いのは問題ありませんが、建築分野の専門柄、エアコンを使わなくても涼しく過ごす方法はないのかと考えるほうが楽しいのかなと思うものの、40℃を超えてくると空気自体が暑くてどうしようもありません。 また、これから世の中がどう動くかわからない状況となっています。私は今、大学で観光のまちづくりをメインで教えているわけですが、観光は平和があってこそ初めて観光のまちづくりが成り立ちます。それがなぜか大国がミサイルを撃ったりとか、未だにやっているような社会であるのに併せ、一方で地球の温暖化が進むなど、これほどわかりづらい時代はないのかなと思います。 あま市の別の会議でも申し上げたのですが、明日、明後日、ましてや10年、20年後はどうなるか全然わからない中で、少なくとも一番大事なのはあま市に住み続けたいという若い人たちを増やす。表現は悪いですが、死ぬときに家族や友だち、そういった人たちにあま市内で見守られて人生を終えたいと思う人がどれくらいいるのか。つまり最先端の生命維持装置が揃っているような名古屋の大きな病院で一生を終えるのではなくて、あま市で親しくしていた人たちに見守られながらと思う高齢者がどれくらいいるか。そういうあま市を目指すのいいのかなと。アンケートで若い人たちが住み続けたくないという答えが出ていたみたいで、それは絶対よくない。私が学生を見ている限りでは、そんなことがなさそうに見えるのですが、学年が上がるごとにあま市に住みたいという割合が減っていくというのはすごく大きな問題と強く思っています。 縁あって参加させていただいていますが、自分自身何をやってきたのだろうと反省をしております。もう一度仕切り直して、若い人たちが住み続けたい、高齢者は親しかった人たちとニコニコしながら人生を終えたいと思えるようなあま市にするにはどうしたらいいのかなということを、皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
事務局	ありがとうございました。

	続きまして次第の2、議題に入りたいと思います。これ以降の進行は、会長にお願いいたします。
会長	ありがとうございます。 それでは、議題（1）第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の延長分の目標値について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	（担当者より資料の説明）
会長	説明がありました内容についてご質問、ご意見はございますでしょうか。 一番上の「市内の特定創業支援を受けた市内の創業者数」の目標値が15件だったのが、実績値は50件になり、目標値は70件にすると、かなり大幅な変更ということだと思います。もう一つは「農地中間管理機構を活用した集積農地面積」の目標値が30.0ヘクタールだったのが、実績値が208.0ヘクタールまでいきましたので、新たな目標値が216.0ヘクタールと、これは制度の変更に伴うものですね。
事務局	そのように伺っております。
会長	上方修正するのは大事だと思います。
委員	下から3段目の鉄道関係「鉄道利用者数（甚目寺駅、七宝駅、木田駅の一日平均利用者計）」の数値で令和8年度がブランクになっている。逆に判定ができないのであれば、このように置くべきなのか、数値を表示すべきものなのか、その辺の方向性はどんな感じでしょうか。
事務局	大変失礼しました。資料作成時点で名古屋鉄道さんの数値がまだ固まっていない状況でありましたので、令和7年度末の数値については現状ブランクにしております。目標値につきましては令和7年度時点、令和6年度末の時点で現状の24,000人に達しておりませんでしたので、こちらについては継続とさせていただきますと考えております。
会長	これって名古屋鉄道さんと整合性をとっていらっしゃるのか。
事務局	そうです。数値がまだ固まっていないと報告をいただきましたので。
会長	目標値とか。
事務局	目標値につきましては、設定するときに毎年数値をいただくようにしていただきましたので、整合性はとれております。
会長	鉄道は、通勤、通学で使っている人がほとんどです。だから、将来的には年齢の構成が変わってきて、通勤が減ってきたり、子どもが減ってきて通学も減ってくることは少なくとも考えられるわけです。一方で高齢者が増えるということは、自動車ではなくて公共交通を使うということも重要なのではと考えられます。そのあたりを参考にされて、名鉄さんと、沿線ということで津島市さんとか、そういったところと本当は連携をしたほうがいいの shouldn't でしょうね。 多分名鉄さんとしても、2万とかだと人数的にしんどいかもしれないですね。別に検証するわけではないので、結構ですが。

	公共交通はやはり今後大きな課題にはなってくると思います。ここでやるのか、総合計画でやるのか難しいですが。 それでは次の議題に移りたいと思います。 議題（２）あま市人口ビジョン案（令和８年度改訂版）について、説明をお願いいたします。
事務局	（担当者より資料の説明）
会長	まず、すごく端折って話をしますと、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」での地域人口は 2060 年で 77, 192 人としますという中で、もう一つダブルスタンダードになっている「あま市総合計画」がありまして、9 万人という数字目標を掲げています。7 万 7 千人というのが現実的な数字で押さえているのですが、もう一方で 9 万人という、これに関しては今「あま市総合計画」の中間時点で見直しをやっていまして人口はさわれないのですが、5 年後に見直しはあるかもしれません。 それでは、あま市人口ビジョン案につきまして、ご意見などはどうでしょうか。
委員	2 点。まず、4 ページ、5 ページの人口動態の中で、5 ページの「男女別・5 歳階級別の純移動数」のグラフを載せていただいています。 これは 2015 年から 2020 年の数字ですけれども、前の 5 年間と比べてどうだったのか。あと最新、2025 年までになるのかもしれないですけど、この傾向はそのまなのか。20 代から 30 代にかけての増減の数字をみると、同じように動いているのかどうかということがあってもいいのかなと思いました。 ちなみに会長にお伺いしたいのですが、こういう 10 代から 20 代の間の流出超過、20 代から 30 代の流入超過等、これだけ出るのは珍しいものなのか、どうなのでしょう。
会長	やっぱり、僕は名古屋に近いというのが非常に大きいと思います。そうじゃないところは違う傾向をみせています。あま市は毎年出る傾向を示しています。
委員	先ほど会長がおっしゃられたみたいなの、20 代の若者が出てくるところと、逆に 30 代くらいが帰ってくるというみたいな話ですね。
会長	そうですね。30 代くらいになると少しリアルな話で、住むところの話になると、あま市は鉄道を使った場合、割と名古屋とか一本で行けて便利がいい。一宮とか稲沢のほうもあるのですが、多分そういう土地の確保というかその辺が、あま市がちょっと有利なのかなと思います。
委員	住むならあま市ではないですけど、ここを出ていかない方、要は東側でなく西側にどうやって入れられるかみたいなのが人口のポイントなのかなと思うと、その傾向が今、過去から 15 年くらいのスパンでどう変わっているか、近隣と比べた数字があるといいのかなと。
会長	何か、事務局からございますか。

事務局	資料として次回お出ししたいと思いますが、手元の資料で確認できるころでは、前回 15 年くらい前の資料と比較しますと、やはり 10 代で減少している、20 代、30 代で転入するといった傾向は継続しているようでございます。
会長	数字としてはそんなに変わっていない。
事務局	数字自体はやはりちょっと…、今回のほうが（転入が）下がっているようですが、また、そういった資料を次回お示ししたいと思います。
委員	14 ページと 15 ページ。「人口減少が地域の将来に与える影響」で、課題について書いていただいているのですが、数値の部分はどこも全部そうかなと思うのですが、“こうしていかない”といけないというところが、言葉が悪いかもしれませんが、“そりゃそうだよね”という感じの書き方だなと思い、何か一般論過ぎるのかなと。もう少しあま市に合わせた課題の示し方があってもいいのかなと感じました。 例えば、「生活の利便性の確保」であれば、バスの利用状況の調査とか公共交通管理を明記されていたと思いますし、そういうものを踏まえるとか、「地域コミュニティへの影響」では、流域で防災・防犯・レスキュー等をつないでいくかと、やっぱり課題とされている地域もあるのかなと思うと、そういうことがすでにされ始めているとか、そういったことが書かれているとより良いなと思います。
事務局	ご指摘ありがとうございます。確かに、この書き方だと全国どこのまちでも同じような書きぶりになってしまっていたかと思いますので、あま市独自の状況について盛り込んだものを人口ビジョンから抽出したいと思います。
会長	他にご意見は。
委員	1 ページ。文章の成り立ちについて、始めに「国では」という文章があって、次に「あま市は」という文章があって、3 段落目に「しかし」という文章でつないでいます。この「しかし」というのは全国が（人口減に歯止めがかかって）ないよということで表現しています。これはあま市も含めて歯止めがかかっていないということでしょうか。1 段落目だけに向けて「しかし」なのか、2 段落目に向けての「しかし」なのか、あま市の状況をかませるのか、かませないのかという判断を、文章をみてどうなのかなと思いました。 あとは、これは人口ベースになって、今後、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の冊子ができて、改訂していくのですか？
事務局	次の議題でご説明をしたいと思うのですが、今回、総合計画の中に盛り込んだ形の示しになるかと思います。
委員	これは活字、文章の問題だけなので、「総合計画」で話はしましたけれど、生産人口が減ってきますよ、というのがまず 1 点。生産人口が減ると税収が減ってきますよという当たり前の話。法人も製造業は増えてきますが、商業が減ってきている状況にあります。

	今後の税収の確保ということについて、役所として様々な施策を打つためには財源的な担保は当然必要かと思います。都市計画税についてもどんな感じで今後やっていこうと思っておられるのか、確認したいと思っています。 現状の説明では、0.3%であるのを0.15%にして、2年継続するということなのですが、都市計画税を導入して初めて市の仲間入りをできたという考え方があり、一方で厳しい財政運営になるのはわかっているなかで、市長さんが就任されて3か月経つのですが、どんな方向性に今なっているのか、教えていただければと思います。
事務局	都市計画税につきましては、導入の際の説明会にて0.3%でお願いしたいということで説明させていただきました。議会におきまして、基本0.3%なのですが、激変緩和措置ということで令和9年度、10年度は0.15%とする条例が可決されました。 4月の市長選挙で現在の市長が0.15%ですよという公約を掲げて当選しておりますので、現在のところは0.15%で据え置くという方針で進めております。
委員	「まち・ひと・しごと」というのは、すぐ人を増やしたいという前提条件があるので、そのためにはここに書いてあるように基盤整備、先ほどの公共交通もそうですけど、インフラを整備していく必要があると思います。 そのために今現在、これを書き変えるにあたって、財源ベースでどうなのかということも委員として知っていきたいということでお尋ねさせていただきました。 高齢者がどんどん多くなっていますが、どうしても補助事業だけでは成り立たない部分があって、人が住んで生きていける状態にするためにはお金がかかります。お金なしで、きれいごとで何事も施策を打てることができないと思っています。重要な部分だと思うので確認をさせていただきました。
会長	ありがとうございました。はっきりと言っていただけなのは、それだけ行政に精通していただいておりますので、そういう意味でいろいろチェックをしていただけるとありがたいと思っております。他によろしいですか。 先ほど14、15ページの「地域コミュニティへの影響」で、「防災、見守り、地域福祉などを担う人材の不足」や「高齢者の支援」といった人口減少の課題と、子どもの出生率を上げる話を並列に書くと、「人材不足を補うために子どもが必要なのか」という受け取られ方をされかねません。ですから、「将来の人材不足のために子どもを産み、出生率を上げなければならない」と捉えられないよう、「子どもを育てることで楽しい人生を歩める」「未来を明るくしてくれる子どもたちを育てていく」といった、前向きな希望を持つことができる表現に工夫した方がよいのではと思います。

	一方で、現実問題として人口減少による様々な課題が生じるのも事実です。しかし、そのために子どもが必要だというのは、当事者世代にとっては納得しがたいのではないのでしょうか。 また、世帯数が増加しつつ世帯人員が減少していく現状において、防災等によく言われる「自助、共助、公助」の「自助」は家族単位が前提であるため1人か2人の世帯では成り立たなくなります。かつて核家族化が進んだ際にも議論になりましたが、世帯人員が減ることで自助が不可能な上に高齢者ばかりのエリアが形成されれば、「共助」をどこまで期待できるかも現実的ではありません。 このように「自助、共助」と紋切り型に当てはめるのは、10年、20年先を見据えると極めて厳しいと言わざるを得ません。都市を維持するために最低限の人口は必要ですが、現実的に人口の劇的な増加があり得ない以上、たとえば「7万人」という目標数値を出すのであれば、その規模に見合ったあま市をどのように運営・機能させていくべきか、その具体的なシミュレーションを「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で示せばいいと思っています。 縮小していったときのあま市の話も念頭に入れながら、人口を増やすことにとらわれなくてもいいのかなと。つまり都市改造、人口の集約エリアとそうでないエリアを明確にしていくか、文教地域を集約していくのか、高齢者の福祉を高める場所とか、それがあまスタイル、モデルみたいなものを発信することができれば、先ほどの一般的な書き方という話がありましたが、そうではなくて全部をクリアするのは無理だけど、少なくともあま市はここを頑張るよというのをちょっと書き込めればと思います。おそらく「総合計画」では長すぎて書けませんので、「まち・ひと・しごと」であればちょっと書いてもいいのかなという案。これは会長権限を越えているのかもしれないけど、気持ちとしてはあります。 普段学生たちと接していることもあり、いろいろとやらせていただいて、「この子らの夢は潰したくないな」というのがあって、ここで出てこなくても、ちょっととがった部分を模索します、というだけでもいいと思います。ちょっと書くと希望が残るかなと思います。人口減少でいろいろと縮小していく中で、あま市はこんなことをやってみようと思っています、というのが書けないかなと。すみません、ちょっと出過ぎているかもしれませんが、あくまでも私の感想でございます。 それでは、質問等、最後にまとめて思い出したらおっしゃっていただいても結構ですので、次にまいりたいと思います。 「資料3 第2次あま市総合計画後期基本計画素案」ということで、「第3期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」とつながっています。「総合計画」というのは基本10年計画。5年くらいのところで見直しを行ない、後期計画とするため、会議を今年開催されているところでございます。私はその副会長を拝命している関係で、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で出てきた意見をその場で言
--	---

	える機会をつくっていただいたので、とりあえず資料3はフィードバックということでお聞きいただければと思います。では事務局、お願いします。
事務局	ありがとうございます。資料3と、追加の資料を今、お配りいたしますので、しばらくお待ちください。 (資料の配布及び担当者より資料の説明)
会長	ありがとうございます。この件につきましてご意見ご質問はございますでしょうか。
副会長	一つ前のあま市人口ビジョン案で、9万人をめざすというところがありながらも、毎回本当に難しいことを話し合っているのだろうと。もちろん実現に向かって考えていくことは大切ですが、一方で、現実7万人になる可能性としてあるわけで、その目標にがんばっていく一方で、実際、7万人が現実的になったときに、きっとプラスの側面もあるはずなので、いかにその中で魅力的なまちづくり、市民生活を豊かにもっていくのかということ、やはり同時進行で考えていかないといけないことではないかと思います。 「総合計画」は、あくまでも9万人をめざして、人口減少を抑えるためにやっていくのだと。だとしたら、先ほどおっしゃられた「まち・ひと・しごと」のほうで、そうではなかったところも同時に考えていく必要があるのではないかとすごく思いました。 資料2のあま市人口ビジョン案の22ページの最後のところ、“適応策”とは何だろうと思いました。「人口減少緩和策及び適応策」。“適応策”というのは各シミュレーションを設定した“緩和策”に対してなのか、あるいはいろんな人口のパターンを想定して、それに対して対応するということなのか教えていただけますでしょうか。
事務局	ありがとうございます。これまで9万人目標といていたところの話と矛盾してしまう話ではあるかと思いますが、先ほど委員がおっしゃっていただいたように緩和策としては人口維持、増加に向けた施策でございますが、適応策につきましては、実際に7万人だった場合に適応したような施策といった意味合いの記載でございます。
副会長	現時点でも適応策ということは「ある」と考えておられる。
事務局	現実的には人口が減少していくといった方向性にも適応すべきであるかとは考えております。
会長	先ほど言いましたように、基本構想というのが10年間になっていまして、確かに10年先のことをシミュレーションするのは難しいのですが、それを毎回見直しということをして今やっているという報告と、そこに今まで「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と別で並走していたのですが、基本構想というか基本計画で一体化していきます、ということが一番の報告。

	ただ基本構想が5年前につくられていますので、人口9万人というのと、現実問題5年経ってどうもきついなということですが、基本構想としてつくったものをコロコロと人口を変更するわけにもいかず、それに向かって動いているものですから、徐々にソフトランディングできるようにしていくのでしょうけど、とりあえず基本構想というか基本計画には9万人が残っています、ということをご理解いただいて。ただ、現実問題7万7千とか7万といっていますから、厳しいと思います。 先ほど、名古屋市の周辺市町がどうこうと申しましたが、取り合いになるはずです。多分、7万を維持するだけでも相当頑張らないとできないかもしれない。つまり、周辺市町も同じように、どうやったらうちに来てもらえるだろうとやっているわけで、インフラだけではなくて、公共サービスや企業の誘致、教育関係で小・中・高校と、総力戦になってくるはずです。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」はどちらかというと総力戦であたるべきの作戦会議みたいなものと思います。上位計画としては「総合計画」の基本構想・基本計画があるのですけれども、多少のブレは仕方がない、後期5年間ですから。この会議は現実をみながら、いろいろと意見を出して、そこでうまく調整をしていきたいということになるかと思っています。
委員	発言していいものかと思いましたが、資料2の人口ビジョン案を拝見させていただき、やっぱり仕方がないと思いますが、課題、課題、課題という書き方になっているのですね。けれども、あま市はあま市で魅力もあるし、強みの部分もたくさんあると思うので、「あま市はこういう強みがあります。それを基にこうしていきます。」みたいな書き方のほうが、もうちょっと明るくやっていけるのではないかなということは思っております。 私は、別の市の部門会議に参加させていただいて、あま市だけみると、わからないことがたくさんございます。例えば、私事で恐縮ですが、ファミリーサポートセンターのセンター長をやっております。あま市は依頼がたくさんで困っているくらいなのですが、他の市にいくと依頼が全然なくて、無料券を使ってまでも依頼件数を増やそうみたいなのところもあります。やはり、あま市の魅力を他の方たちにもたくさん伝えていって何とか人口を呼んでいただきたいなと思っております。 あと、A3の資料の中でシティプロモーションという言葉があるかと思いますが、大事なことだと思っています。あま市にはシティプロモーション課がなかったかなと思いますので、つくるつもりがあるのかどうか質問させていただきたいです。
事務局	貴重なご意見として、検討させていただきたいと思います。
会長	後期基本計画素案で6ページに地図が出ています。西三河、東三河では合併して一つの自治体の規模が大きくなっているのですが、名古屋市の周辺は大体小

	規模にひしめきあった状態となっていて、やはり周辺どこで綱引きになるのが目に見えています。でも人口は限られているので、ここで間違えると7万どころかさらに減ってしまうかもしれないという危機感は多少あってもいいのかなと。 例えば、総合力では名古屋市には勝てないとしても、ここに関しては名古屋市よりもあま市だよというのが一個あると夢があるのかなと思います。それらのネットワークの軽い話はこの会議体が似合っているかなと思っておりますので、それが実際に基本計画に組み込まれる形になりますから、機能していくのではないかと思います。 是非、皆様のご提案、これからこんなことをやりたいというのを言っていただければと思います。
委員	今話を聞いていて思ったのですが、これだけやってきて、先ほど数値の上方修正もありましたが、これが効いているみたいなものは市としてあるのでしょうか。数はわからないけれど、質的に評価される環境があるとしたら、そういう市民が活躍しやすいまち、市民活動でも事業でもちゃんと出していくと、そういったところが強みになって、そこで一緒にやってみたいということが増えておもしろいのかなという感じで、そのあたりをどう評価されているのかなと聞いてみたいです。
事務局	ありがとうございます。先ほど資料1でみていただきましたように、一番上の創業者数につきましても、令和6年ごろから伸びております。こちらはAMA創業塾の開講がありまして、何とか力を入れていただいて、創業者の数が増えてきていることがあるかと思います。 また、二つ下のアートヴィレッジにつきましても、令和2年コロナの影響で落ち込みがあったかもしれませんが、倍増で利用者の方が増えてきています。そこは正解ではないのかなと感じておりますし、「総合計画」のほうでも、アートヴィレッジの活用の中でも検討がされるようなところであります。 また、3番目の子育て支援の分野で、先ほどおっしゃっていただきましたように、ファミリーサポートセンターで着実に利用者が増えておりまして、あま市の子育て支援の中で大変重要な位置になっているのではないかと考えております。保育園分野も待機児童が出ないように民間の認定こども園とも連携をしながら事業を進めていっているところでございますので、こういったところは成果ではないかなと考えているところでございます。
委員	会長もおっしゃられたように、あま市としてみたいなところでいくと、フラットに扱おうと埋もれてしまうのはもったいないと思うので、そういったところを強みにしてもいいのではないかなと思います。
会長	ありがとうございます。委員の活動は、あま市で成長してきて活発になってきたのでいかかですか。
副会長	市民活動の中で、子育て支援を行っています。

	子どもを産んですぐのお母さんは、初めて地域に目が向きます。それまでは働いていて、家には帰ってくるぐらい。それが子どもを産んだことで初めて、子どもを育てていくこの場所はどのような環境で、どのようなサービスがあって、何が利用できるのだろうと、お母さんたちがまず参加してくれます。 おかげさまで、今年創立 20 周年を迎えましたので、入ってくれていた参加者の皆さんが、今度は支援者側に育つという瞬間がいい形で生まれていて、今、地域活動にちょこっとだけ貢献できているかもしれません。
会長	確かにいろいろ良くなっている実感はあるのですが、目立たないのですよね。だから、かといって簡単にできるものではないものをずっと積み上げてきたのかなという感じはあるので、普通になってしまっています。よそに移って初めて「あれ、あま市はこうだったのに」というのがあるような気がします。 あと、私の実感としては、美和高校さんの地域探究の授業、地域探究科の設立に協力させていただいたのですが、子どもたちとあま市のフィールドワークしたときに、地元の人たちが丁寧、協力的に対応していただけているのを見ると、地域で何か高校生とやっているのだという実感はありました。だから、そういう意味では高校生、今度は中学生たちもやるのですが、いい環境で育っているのかなという気はします。ただ、これをうまく PR するのは難しいですね。綱引きをやると負けちゃうかもしれないという、残念なことですよ。 では時間が来ていますので、次の 4 番目の議題。 (4) 新しい地方経済・生活環境創生交付金及び企業版ふるさと納税制度の活用状況についてを事務局より説明をお願いいたします。
事務局	(担当者より資料の説明)
会長	ありがとうございました。この件につきまして、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。
会長	せっかく来ていただきましたので、ご発言していただいている方に順番に。
委員	市内の商工業者に対して、PR をどのような形でやっておられるでしょうか。
事務局	こちらにつきましては、ホームページで実施をさせていただいています。
会長	市内の事業者は、あま市にふるさと納税はできないと思いますが。
委員	ふるさと納税はできないにしても、こういうものがあれば地元の業者も、市に対して協力できることがあるかなと思います。いろんな制度があれば是非協力させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。
会長	委員、いかかでしょうか。
委員	あま市としての特徴あることは何だという話で、先日「あま市って知らないんだけど、どんな市？」と聞かれたことがあり、即答できない自分がいて、そのとき答えたのは「伸び盛りの市です」と言ってしまいました。「あ、そうなんだ。頑張っている市なんだ」と会話が終わって内心ホッとしたのですが、そのときに何か一つ、子育てに力を入れているのだよとか、お年寄りのために…とか何かそ

	ういいうのがあると、もつとPRできて、何かのときに、「愛知県にこいう市があるんだよ」と広めていただけたのではないかなと今日思つたのですね。 本当に時間がかかることが多いかと思ひます。ミルキーネットは結構子育てのお母さんにお会ひすることが多いのですが、そいうつた方々がじわじわと、こいうことをやつている市だよねと言つていただけるよな、そいう企画が具体的になつてくるといいなと今日思わせていただひて、また何かあつたら「頑張つている市だよ」と言われてもらひたいなと思ひました。 今日はありがうござひます。
会長	ありがうござひました。委員、お願ひします。
委員	大変興味深く資料を見ました。今日はこれを整理して話をしていただけるのかなと思つて期待しておりましたけれど、ざつとこいうことで、また主要項目だけ見直しをしていきたくと思ひます。 1点、あま市の人口ビジョンの方向性をどうするかこいう大きな課題に向けていろいろ発言をしていただひていると思ひのですが、実は私も息子が2人おり、2人とも東京へ出て働いております。周りの環境をこの東海地方と比較をすると、東京は給料面、待遇面、環境面にしても全然スケールが違ふのですよね。それを踏まえたうで、あま市はどうするかこいう問題で、例えば息子に「お前、いつになつたら帰つて来るんだ？」こいう話をしたら、「定年になつたら戻つて来る」と言つておりました。こいうことは20年くらいあとの話と思ひていますが現実的には帰らないと思ひます。2人とも海外戦略に伴うよな仕事をやつていますので、当然世界に向けて行こうと思ふと、羽田とか成田とか巨大空港があり、そいうところを利用して生活しているよな状況なので名古屋に來いと言つても来るわけがない。 だつたらもつと何か違ふインパクトがあると本当はいいなと思ひのですが、今言われたよに「あま市の魅力、何？」と聞かれた場合、昔の歴史人物とか、神社仏閣とかすごいものがあると、伝統文化の七宝焼のアートヴィレッジとか、メイン的にはそれくらいしかないですよね。だからそれに代わるよなもの、例えば今の企業誘致も一生懸命やつていただひていると思ひますので、もうちょっといろいろとお金を使いながら、現実問題、いい人材をあま市に引つ張つてくるよな戦略を取つていく必要があると思ひます。 高齢者でも生産活動が活発なのだよ。この9月、10月にちょっと大きなイベントをあま市でやる計画をしています。一つは老人を外に引つ張り出して、愉快に楽しく元気よく生活していただこうこいうことで、甚目寺公民館、大ホール800人ほど入る会場を、とにかく満杯にしようこいう計画で今動いております。開催を通じて市民の皆様こいうまちこいう一面をアピールできたらなと思つて計画しております。

	ただ悲しいかな、我々には市の支援も助成金も期待できるものがありませんので、民間企業にアピールして一生懸命資金集めをしております。そういうことをやりながら、楽しいまちづくりも人口増加の一つの大きな要因じゃないかと思えますので、これは継続して、こういう会議の中で意見を取り入れながら協力できたと思います。
会長	ありがとうございました。委員、どうぞお願いします。
委員	私共も農業推進と生活者の支援の立場から、様々な事業を行っております。 9月はあま市民病院さんと連携してイベントをやろうかと進めておりますし、J Aのなかで各学校に出向いて食における農業体験とか地域農業の必要性、食料の安全保障といった観点から出前授業を展開して、地域でいろいろと知ってもらい活動を行っています。 また、J Aのなかにはいろいろな組織があり、青年部、女性部、助け合いの会といった生活に根付いた活動を行っており、いろんな地域ごとに支店を拠点としてヨガ教室だったり、フレイル予防であったり、いろいろな地域の拠り所となるような活動をこれからも展開して、住みやすいまちづくり、地域に根付いた気軽に利用してもらえるような事業展開を続けていきたいと思っています。
会長	ありがとうございました。委員、お願いいたします。
委員	まず1点目。私はあま市住民で、統計の通り、私の家も典型的な子どもが出ていって、この後、どうやってあま市で住んでいこうかなということを真剣に考えないといけないと個人的に思いました。 あともう一つは、今年度から新たな人口構造で、受験を受ける学校よりも受験者数が減っていくという大学の2026年問題。これは2040年でこれだけ人数が減ってしまうと、なかなか言いづらいですけど、五条高校か美和高校さんかどちらかがなくなっていく。もしくは両方ともなくなって、津島を含めた学校があと1校か2校になってしまうという、実は現実的に考えなければいけない。子どもの数が減る、人口が減るということは、見えないところでどんどん進んでいくということを考えながら、この会議でも出なければいけないなと思いました。
会長	ありがとうございます。委員、お願いします。
委員	高校という立場で言うと、課題のところはあります。ただ一方で、会長から話があるように、本校地域探究科の活動が本当に活発になってきて、今2期生まできているのですが、本当にいろんな地域共存の部分で、地域と一体になってやらせていただいています。この前、神社仏閣のプロジェクトの方々と一緒に歴史探究というようなことをやらせていただいたり、本当に地域の方々に支えられながら美和高校がある状況になってきています。 今、この会議の中で発言しようかどうか迷ったのですが、実は本校自身はあま市の6中学と連携をしております。これは附属中学校ではなく連携中学校で、全国にない形なのですね。愛知県教育委員会の指示によりやっている部分はあつ

	て、実はやっつけて非常に難しい。ただ、今まで我々も感じていた小中の文化と高校の文化は、教育というところで実は寸断されていたのですね。中学校の文化、考え方を知らなくて、我々高校とそういう形になって、小中のやっていることがわかると、高校は何をしなければならぬかという課題に今直面していて、そこを打開していく中で接続ということを感じています。 7月10日も1,000人を相手にうちの生徒、教員が授業をしに行っていて、この規模感をずっと続けていくのは本当に結構つらい。でも、毎年それが進んでいった先に実際何が起こるのかなとか、今、宝小学校さんがプロジェクトを本校にもってきて、会長を含め何校かの大学の方と小中高大連携を今、美和高校ではやっています。数値には表れないところですけど、そこにもうちちょっと何かの力が加わっていったら、将来のビジョンとして、もしかすると今本当に津島市や稲沢市、清須市のほうは私学が先行しているので、生徒も助成金の問題があって難しいけれども、他の学校さんが（定員を）割れしている中、本校はなんとか定員を満たして、小規模ですけどしっかり進んでいくことをすると、みていただけたところは何かあるのだろうなと思います。 最終的に今の会議で具体的な何かに変えるのは難しいかもしれないけれども。本校に来る生徒は、地元に残る可能性のある子たちのほうが多いように感じています。当然そういう場を飛び越えていく生徒を育てたいという気持ちもあるのですが、そういったビジョンを持ちながら普及活動をしていけるといいのかなと思います。我々も愛知県教育委員会に所属していて、もう少しあま市教育委員会やいろんなところと意思疎通連携をしていけると、小中のビジョン、高校のビジョン、大学のビジョンにつながっていく循環が起きてくるのかなと。ただ具体的な数値で表せられるものでもなければ、計算ができるものでもないので、教育って難しいなと思っています。 本当に知恵を出しながら、会長とは長くやらせてもらっています。そういったことが引き続き、今のあま市の戦略会議につながっていくビジョンになるといいなという感想を持っています。展開や提案ではないですが、本校ではそんなところで動かせてもらっています。 最後になりますが、僕もあま市に16年勤務させていただき、教頭になるまでかなり時間が経過しているけれども、この会議に参加させていただいているのも何かの縁だなと思うので、あま市のビジョンに本校が少しでも関わっていけるのではというふうに感じております。
会長	ありがとうございました。お願いします。
委員	今日は代理出席ではございますけれども、僭越ながらお話をさせていただければと思います。 三菱UFJ銀行は東海4県、約60の自治体の担当をさせていただいております。私はその統括になっておりますので、自治体を横並びにみる立場の人間とし

	て、今日の全体を通じて感想を申し上げたいと思います。加えて、余談ですが、5年前までは私はあま市の営業担当をやっておりましたので、あま市に特別な思い出がありますので、もう少しこうしたほうがより良くなっていくのではないかと、という観点で少しお話をさせていただきます。 感想を一言で言いますと、ちょっと肝心なところで抽象度が高いのかなというのは正直感じました。抽象度を感じたところを言うと、この中で、打ち手のところ、施策のところというふうに感じております。 大事なことはK P Iではなくて、自治体として施策の何を取り組むのか、この抽象度、具体性をもっと高めていくことが大事なのではないかなと思っています。K P Iは最終的にその施策がうまくいったか評価を図るための資料、参考数値だと思っていますので、K P Iの数値が目標にならないようにしたほうがいいのではないかなと思いました。 では、なぜこの施策のところがあやふやになっているのかなというところに思いを抱くと一つはファクト。この資料のほとんどがファクトを記載しています。ではその事実を収集して、だからどうなのと、ここがもう一歩踏み込みがほしいなと正直思っています。 では、このファクトはなぜこうなっているのかという検証みたいなものがあると、よりいいのではないかなと。逆に、うまくいっていることがなぜそうなったのかというところに絶対ヒントがあるはずなのですね。例えば、資料「企業版ふるさと納税実績」。なぜあま市に寄付をしてくれたのか、寄付された方の事情、理由、トレンドを分析されていますかね。ここに絶対ヒントがあると思うのですよね。そういったことを是非大事にさせていただきたいかなと思います。 あともう一点、打ち手のところが抽象度が高いなと。その理由として、課題と問題と打ち手と効果の4つがごちゃ混ぜになっているような気がしています。 あま市さんとして、あるいはあま市役所さんとして、目指すべき姿、ありたい姿があって、ありたい姿ということは何か問題があるからここにまだ到達していない。だからその障害となっているもの、ネックは何か。そこを取り除けば、ここに到達すべき、ということは施策、打ち手は障害となっているものを取り除くものとなっているはずなのですね。それが施策として、打ち手をするとうどんの方向性、どんな方向性が生まれるか、そこの想像力を働かせてもらうのですけれども、打ち手をやった結果どうなりそうか、想像したものが徐々に目指していたものと一致しているかのチェックをする。このチェックの連続によって、肝心なところの具体性がもう少し上がってくると、この中でもここが一番大事だよとか、そういったことが段々シャープになってくるかもしれません。 本当になまいきな話をしてしまいましたが、感想を述べさせていただきました。
--	---

会長	ありがとうございました。 皆様から貴重なご意見をいただきありがとうございました。是非ご検討いただきたいと思います。 すみません。ちょっと時間が押しましたが、最後に「これだけ」という方はおみえでないでしょうか。
副会長	あま市は官民協働で、委員さんたちが本当に真剣に考えて、それぞれの立場で意見を言われる委員会はなかなかないですし、また、実際に現場で出た意見をちゃんと取り入れてくださるというのは、あま市のすばらしいところだと思っております。
会長	ありがとうございます。それでは、本日の議題は終了となります。貴重なご意見をありがとうございました。 それでは事務局にお返しいたします。
事務局	事務局からですが、次回第2回の審議会は9月を予定しております。改めて正式に開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。
会長	長時間にわたりありがとうございました。
事務局	以上をもちまして、令和8年度第1回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

以上